2018
12月号
あさお市民活動レポート
平成30年度麻生区地域課題対応事業
「あさお市民活動レポート」第2巻第22号
発行日：平成３０年１２月１日

あさおるれず

Asao Friends

発行元：認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター

今年9月から実施してきた「NPO法人10周年記念セミナー」も最終章に！

「あさお市民活動サポートセンター」は、情報発信がこれからの地域活動のポイントと考え、紙レベルからWEBレベルまでの活用講座を企画。

9月の「チラシ作成講座」からはじまり、来年1月より開催する「フェイスブック実践講座（団体向け）」で最終となる。

インターネットは市民に自由な情報発信の手段を与えてくれたと言われ、特にフェイスブックは「人と人」「人と団体」「団体と団体」をつなげる手段として利用者も多い。

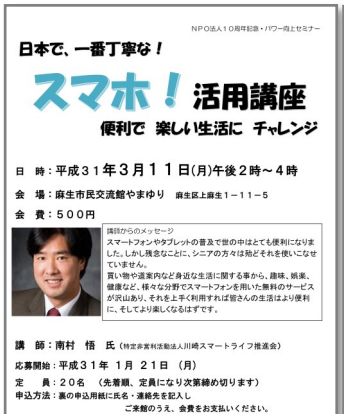
「10周年記念セミナー」は毎回多くの方が受講

今回の講座では、最新の活用法について、経験豊富な加藤たけし氏に3回に渡り講義をお願いした。加藤さんは実家が麻生区で「やまゆり」の前を通るたびに、その活動に関心を持たれていたという。現在、文部科学省の広報戦略アドバイサーも務められている。

受講者にはフェイスブックに関する知識を深めてもらい、自らが情報発信者となり、さらに新しい繋がりや世界、時代をつくりだす一助として欲しい。

また、今年開催した記念セミナーのなかでも、とくに定員の倍以上申込があった講座「行列のできる講座とチラシの作り方（1月14日開催）」・「スマホ活用講座（3月11日開催）」は、前回のキャンセル待ちの方を中心に追加講座を実施することになった。若干余裕があるので、申込は館内で配布されているチラシを参照されたし。

そのほか、10回目を迎えた「区民講師公開講座」にも、過去最高となる17名の講師希望者から申込をいただいた。講座はそれぞれ大変興味深く、面白い内容が盛り沢山だ。現在、日時など調整中だが、来年3月（予定）からはじまる講座にも期待していただきたい。



スマホ！活用講座
日　時：3月11日(月)14～16時
受講料：500円
定　員：20名(先着順)

フェイス・ブック実践講座
【第1回】1月20日(日)10～12時
【第2回】2月17日(日)14～16時
【第3回】3月17日(日)14～16時
受講料：1000円(原則３回参加できる方)
定員：20団体(先着順)

行列のできる講座とチラシの作り方
日　時：2019年1月14日(祝)10～12時
受講料：無料
定　員：20名（先着順）
応募締切12月20日(木)

お申込は各講座チラシ裏の申込用紙に氏名・連絡先を記入し、来館のうえ、会費をお支払いください。

わたしが変わる。未来が変わる。
ガールスカウト神奈川県第32団

2018. 4 フライアップ式
黒川青少年野外活動センターにて

「自立・自己啓発」の理念を掲げ、少女と女性のための世界最大の社会教育団体であるガールスカウト。麻生区では1973年に「ガールスカウト神奈川県第32団」が創設された。現在、小学1年生から高校3年生までが在籍し、新百合ヶ丘周辺を拠点に募金活動や美化活動・野外活動・料理作り・クラフトなど様々な活動に取り組んでいる。

秋に開催されたかわさき市民祭りではパレードに参加。年長者が先頭で横断幕を持ち、その後ろを年少者が小さな旗を振りながら続く。「未来を担う希望の星たちの行進です」とアナウンスが流れる。パレードのあとはブースでクラフトの紹介で忙しい。活動の合間に「スカウトの魅力は何?」と聞いてみた。一斉に返ってきた答えが「キャンプ!登山!ハイキング」と。自然を目の前には発見の連続だという。国内外での交流会も多い。この夏には米ボルチモア市から訪日したボーイスカウトとの交流会があった。参加した少女は「片言の英語でも友達になり楽しかった」と話す。学年も学校も超えてたくさんの友達と出会うことは貴重な体験だ。

「わたしが変われば、未来が変わる」という思いでガールスカウトの精神が引き継がれ、2020年にはイギリスで創立してから100周年の歴史を迎える。多くの人との交流と体験活動を主軸にしながら、少女たちが未来に向けて歩む大きな力に期待したい。

取材・文　区民記者　但木かこ

DATA
ガールスカウト神奈川県第32団（かながわけんだいだん）
代　表：団委員長　松田（まつだ）　基久乃（きくの）
連絡先：gskanagawa32@hotmail.com
設　立：1973年3月
団員数：39名　団員募集中
会　費：連盟会員登録費、団員活動費　キャンプ代など
活動日：主に月2～3回、日曜の午前中または1日
活動場所：麻生市民館・黒川野外センターなど、麻生区中心に活動

身も心もはずむ演奏はいかが！
BBQ SET

小気味よい演奏とボーカルで聴衆を魅了するエレキバンド。その名はBBQ SET。真福寺小学校のPTAが、保護者に特技を持つ人材をつのったとき、楽器の演奏ができるものが集まり、それ以来地元での活動を続けている。

バンドの構成はドラム1名、ギター2名、ベース1名、キーボード2名、ボーカル4名（演奏を兼務）。レパートリーは演歌からポピュラー、湘南サウンドまで幅広いが、出場するイベントに応じて選曲する。記者がはじめて出あったのは、数年前、地域の自治会が主催する夏祭りだった。そのころもほぼ毎年目にするが、季節がらサザンオールスターズの曲が多い。夕暮れせまる公園にサウンドが響きわたると、聴衆は椅子に腰かけた年配者をふくめ、手をたたいたり、体でリズムをとったりと、大いに盛り上がる。

6月の麻生音楽祭、7月の新ゆりグリーンタウンアカシア街区の夏祭り、10月の麻生区民祭り、12月の王禅寺中央中学校アートフェスティバルなどで演奏に出あうことができる。2019年1月6日に、麻生市民館でのあさおサウンド&ヴィジョンに例年通り出演するのでぜひでかけてほしい。

イベントでの幕間のひととき

BBQ SETの名前の由来は、設立した頃にバーベキューを開いたことによる。イベントのあと、ことあるごとに飲み会を開く気さくなグループだ。ホーン奏者を募集中とのこと。連絡をとってほしい。

♪勝手にシンドバット♪で幼児までがノリノリ
(2018. 7アカシア夏祭り)

DATA
BBQ SET（びーびーきゅうせっと）
代　表：其田（そのだ）　直規（なおき）
設　立：1998年10月
会員数：9名（男性7名、女性2名）40～50歳代
会　費：1000円/1回（スタジオ代）
イベントの都度2ケ月前から2回程度練習
活動日時：不定期
活動場所：イベント会場

取材・文　区民記者　中島久幸

不朽の名作を味わい尽くす
源氏物語を楽しむ会

千年の時を超えて読み継がれ、古典の中の古典といわれる源氏物語。平安時代の貴族社会を舞台に、54帖にわたって絢爛と繰り広げられる物語をさまざまな角度から味わい尽くそうと結成されたのが「源氏物語を楽しむ会」だ。

講師役を務める藤井悦子さんが、麻生市民交流館やまゆりで公開講座を開いたのをきっかけとして、この夏に発足。やまゆりで開く例会では、藤井さんがこれぞという場面を選んでテーマとし、原文を示しながら、表現や時代背景などを解説していく。「当時は髪洗い休暇があった」などというエピソードもはさんでいくのは、往時の暮らしぶりをも具体的に知ってもらうためだ。

会では活発な意見交換も行われる

メンバーはそれぞれに源氏物語を読み込んでおり、文の解釈や登場人物についての意見交換も活発に行われる。「読むたびに感じるところが違う」「人間関係が面白い」「藤原氏と天皇家の政治物語としても読める」―とはそれぞれの声だ。長大な物語が持つ多彩な側面をいかようにも楽しめるのが魅力なのである。

国語の教師を長く務めたのち、源氏物語をテーマとした講座を各地で開いている藤井さん。「ただの色恋の物語と思う人もいますが、そうではありません。物語を貫いているのは、因果応報という仏教思想です。いまにも通じる普遍性もありますね」と語る。外国でも注目されているという名作。「こんな素晴らしい小説があるのを多くの人に知ってほしい」というのが、藤井さんをはじめとする会の面々の思いだ。

講師の藤井悦子さん

五十嵐さんたちによれば、より多くの人、特に男性にも参加し、楽しんでほしいとのことである。一度訪れてみることをお勧めしたい。

何気に咲く花々と、奥にはかりんの木がある散策路

DATA
源氏物語を楽しむ会（げんじものがたり　たのしむかい）
代　表：奥島　弘巳（おくしま　ひろみ）
連絡先：verdi@mbd.ocn.ne.jp（奥島）
設　立：2018年7月
会員数：７名
会　費：資料代実費、月数百円程度
活動日：原則として月2回予定
活動場所：麻生市民交流館やまゆり

取材・文　区民記者　佐藤次郎

細山には、語らいがある花も実もある！
三井細山○カフェ

「今日はお菓子とお抹茶が出ます」予定の説明に集中

三井細山○（まる）カフェは、毎月第3日曜日に開催される高齢者のためのカフェである。歌、体操、ミニ講座などのほか11月～4月には手作りのお菓子、コーヒーも用意され、毎回、お喋りと笑顔が絶ないという。

代表の五十嵐幸子（いがらし　ゆきこ）さんは、この活動を始めた理由と名前の由来をこう語る。「地域の高齢化が進み、顔を会わせお喋りする機会が減った。自身や家族の病気で悩んでいる人もいると思う。誰もが楽しめる交歓の場が必要と思いはじめた。○（まる）カフェの名前は、全てがまるく収まるようにとの思いなどからつけた。」

五十嵐さんやスタッフの方々の人柄だろう、○（まる）カフェは全てが暖かい。参加者の人達、見学などで参加していた二人の大学生、さらに取材時、庭に咲いていた花々、豊かに実ったかりんと小さな散策路、そのすべてがみんなを暖かく包みこむ。

DATA
三井細山○（まる）カフェ（みついほそやま）
代　表：五十嵐　幸子（いがらし　ゆきこ）
連絡先：Tel.044-951-4556
設　立：2016年11月
会員数：スタッフ11名（女性11名）
参加費：200円
活動日：毎月第３日曜　13時30分～15時30分
活動場所：川崎市麻生区細山４-10-5
（「あい・細山デイサービス」の施設を借用）

取材・文　区民記者　仲原照男

突撃レポート

レシピはレシピにしてレシピにあらず

サークル　男の自慢料理

サークル男の自慢料理は、麻生市民館で開かれた成人学校「男の自慢料理」の受講生が1996年4月に立ち上げた。月1回、男ばかり25名が特製の頭巾と思い思いのエプロンといういでたちで5卓のキッチンを班ごとに囲む。運営委員が用意した食材を前に印刷されたレシピを見ながら早速調理がはじまると思いきや、おもむろに会長の挨拶、講師がレシピの紹介。取材した日のメニューは2種類のパン、南瓜のスープ、ミートローフ、温野菜サラダ。

パンは捏ね方、発酵、温度管理などなかなかの曲者。さすが20年におよぶキャリア、たいして講師の説明を聞きもせず男どもが動く。多くがマイペース。しかしながら、丁寧、無心に取り組んでいく。

調理も佳境に入る。まるで多数のアリが巨大な獲物を巣に運び込むかのよう。あるものは調味料をあわせ、あるものは玉ねぎを刻み、手すきのものは洗い物と、阿吽の呼吸である。料理や食の研究家である講師の清田さんは「教室では男女の違いが著しく出る。レシピどおりの女性に対し、説明も聞かず勝手にはじめるのが男」という。各卓での作業がなぜか同じようには進まない。そこはやはりプロの講師が適宜に手直しをしていく。レシピだけでは分かりにくい、料理教室でこそわかるポイントがあるはずだが、誰もメモを取ることもなくおおらかである。講師の眼をかすめ二次発酵もそこそこに焼きはじめた班が出るのもご愛敬。

いよいよ実食。正直な感想として、少しバタバタし、わいわいがやがや進んだ印象にも関わらず、パンはふっくら、「10×28 cmの楕円状に成形」とされたミートローフもしっかりとソースがつき、「男の自慢料理」というやや大げさな呼称に恥じぬ立派なでき上がりとなった。

祭りで火を焚き、特別な料理を作り、食し合い語り合う。同じ釜の飯を食べた連帯感のようなものが会員の間にあり、23年という長寿サークルとなっているのだろう。

学んだレシピを家庭で再現できるかどうか期待は薄いが、台所で洗い物をし、皿を片付けるという作業は上手になる。片付けの手際が良いのは「一刻も早く二次会に」ということかもしれないが、入会に興味を持たれたご主人の背中を押していただければ、この技量については保証できると感じたサークルだ。

DATA

サークル　男の自慢料理（おとこ　じまんりょうり）

代　表：会長　山本　照雄（やまもと　てるお）
連絡先：Tel.090-7812-2548
設　立：1996年4月
会員数：25名
会　費：3000円／月
活動日：基本第2土曜　9時30分～13時
活動場所：麻生市民館調理室

ホームページ　http://web-asao.jp/hp/ojryouri/

取材・文　区民記者　景山茂

取材申込受け付けます！

「活動を紹介して欲しい」「イベントを取材して」
そんな声に区民記者が応えます。
お申込み内容を編集会議で検討したうえ
改めてご連絡させていただきます。

●応募条件

麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤者が活動に参加している。

●申し込み方法

❶ 団体名　❷ 代表者名　❸ 連絡先（電話・FAX・メール）
❹ 活動内容（イベントの場合は開催日時・料金・内容）を、「あさお区民記者」宛てにFAXまたはメールでご連絡ください。

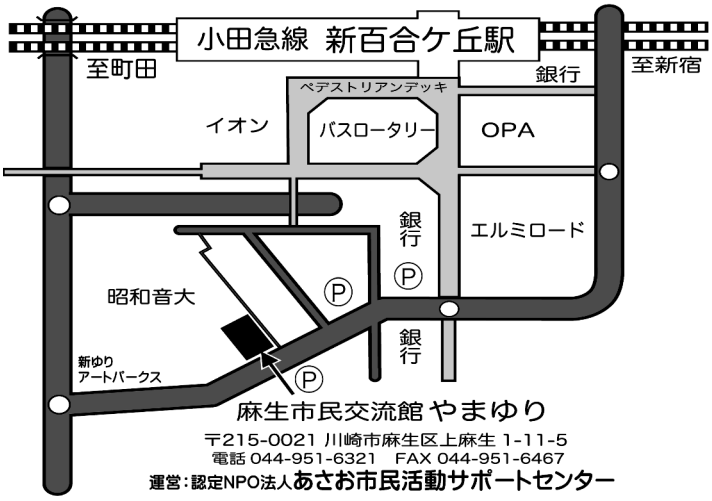
FAX.044-951-6467

Mail　info@asao-ku.net

※但し、選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。

あさお区民記者クラブ

「区民による 区民のための 情報発信」を目的に活動。
過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。
http://www.asao-ku.net



〒215-0021 川崎市麻生区上麻生 1-11-5
電話 044-951-6321　FAX 044-951-6467
運営：認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター

平成30年度麻生区地域課題対応事業「あさお市民活動レポート」第2巻 第22号　平成３０年１２月１日発行　発行人：植木昌昭　編集人：佐々木直子